

# 衆議院法務委員会ニュース

平成 27.9.4 第 189 回国会第 39 号

9 月 4 日（金）、第 39 回の委員会が開かれました。

## 1 裁判所の司法行政、法務行政及び検察行政、国内治安、人権擁護に関する件

・上川法務大臣、政府参考人及び最高裁判所当局に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

### 國重 徹君（公明）

- ・死因究明は、科学的で客観的な証拠収集活動であり、死因究明制度を充実・強化させることは、供述調書への過度の依存から脱却するという刑事訴訟法等改正案の問題意識にも合致すると考えるが、死因究明制度の充実・強化の必要性について、法務大臣の見解を伺いたい。
- ・検視に係る書類は、その様式や内容が全国各地で異なるというのが現状であり、これを是正するために、検視に係る書類作成事務の合理化が必要であると考えているが、「死因究明等推進計画」（平成 26 年 6 月 13 日閣議決定）に基づく取組の現状について、伺いたい。
- ・薬毒物検査や死亡時画像診断の実施状況については、地域によって大きく差があり、死因究明制度を実効的なものにするためには、このような地域間格差を是正するための取組が必要であると考えているが、今後の取組について、警察庁に伺いたい。

### 山尾 志桜里君（民主）

- ・刑事裁判で実刑判決が確定したにもかかわらず、刑務所内で人工透析治療が行えないために刑務所に収容されていない者が多数おり、今後も、このような収容待ちの人数が増えると思われるが、どのような対策を講じようと考えているのか、伺いたい。
- ・人工透析治療のための収容待ちの受刑延期者の中に暴力団関係者がいると推察される。このような者の刑の執行停止をするか施設に収容するかを判断を、検察官が個別に行っているという現状を踏まえ、その判断を行うに際し、統一的な基準が必要ではないかと考えるが、法務大臣の見解を伺いたい。
- ・出産直後の受刑者と子どもの過ごし方に係る運用の改善の必要性や省内の勉強会で刑務所内での育児などの在り方を検討していくことについて、法務大臣の見解を伺いたい。
- ・取調べの録音・録画の機器について、「子どもの権利擁護センターかながわ」の司法面接で用いられている小型カメラ等の機器を参考にして、全面可視化への準備を進

めていくべきではないかと考えるが、法務大臣の見解を伺いたい。

### 柚木 道義君（民主）

- ・8月に大阪府寝屋川市で発生した中学1年生男女生徒の殺害事件の容疑者が、前科のある者であり、かつ、事件発生2日前に職務質問を受けていたにもかかわらず、事件の発生を防げなかったことに鑑み、今後、前科前歴のある者に対し、職務質問や任意同行が行われた場合に、その機会を利用し、前科前歴の情報を活用して、再犯防止につなげる何らかの仕組みを構築することを検討できないか、法務大臣の見解を伺いたい。
- ・上記事件の容疑者が、前刑について、刑務所を満期で出所していること及び刑務所満期出所者の再犯率が仮釈放者よりも高いことに鑑み、刑務所満期出所者を保護観察の対象とするよう、保護観察態勢の見直しを図る必要があると考えるが、法務大臣の見解を伺いたい。
- ・保護が必要な子どもを、緊急的、一時的な避難場所である子どもシェルターから、就労を前提とした社会復帰のための自立援助ホームに、直ちに移動させることは、子どもの置かれた状況、両施設の役割の差、受入れ態勢等から、困難な場合が少なくないことから、両施設の間断的な施設が必要であると考えているが、法務大臣の見解を伺いたい。

### 井出 庸生君（維新）

- ・刑事訴訟法等改正案により導入される特定電子計算機を用いた通信傍受について、一時的保存をした通信は速やかに再生すべきであると考えているが、再生しないまま放置することがないよう期限を設けることはできるのか、警察庁に伺いたい。
- ・特定電子計算機を用いた通信傍受を実施する際に警察が運用において行うこととしている、捜査に従事していない職員による指導について、傍受の実施場所には一定程度の人員が配置されることが想定されることから、事実上、常時立会いによる指導を行うことになるかと考えるが、

警察庁の見解を伺いたい。

- ・再犯防止について、受刑者の職業訓練の一環として、外部の自動車教習所に通って自動車運転免許を取得することを可能にすることを検討すべきであると考えているが、見解を伺いたい。
- ・受刑者の職業訓練について、現状では定員が少なく、受講者も少ないと考えるが、法務省の認識を伺いたい。また、今後、科目や定員を大幅に増やしていく必要があると考えるが、そのための人員や予算の確保について、法務省及び法務大臣に伺いたい。
- ・職業訓練を実施する刑務所における訓練生の選定において、他の刑務所から推薦された候補者が必ずしも採用されていない現状があり、定員を充足させる上でも、改善が必要であると考えているが、見解を伺いたい。

## 清水 忠 史君（共産）

- ・平成27年2月19日の「犯罪対策閣僚会議再犯防止対策ワ

ーキングチーム幹事会福祉・医療的支援タスクフォース」の申合わせにおいて、保護観察所や医療・保健・福祉機関による薬物依存者への支援が円滑かつ効果的になされるよう連携の指針となるガイドラインを作成する、とあるが、この進捗状況について伺いたい。

- ・薬物依存に関する治療や専門的支援を行う医療機関等が不足し、刑務所出所者等への医療機関等の紹介先の確保が困難な中で、薬物使用者に対する刑の一部の執行猶予制度が開始されれば、紹介先の確保を現場の保護観察官等にのみ行わせるのは難しいとの危機感を持っているが、法務大臣の見解を伺いたい。
- ・薬物使用等の罪を犯した者の家庭の状況やダルクのようなりハビリ支援団体の支援を受けられるかどうかなどを具体的に判断できないと、刑の一部の執行猶予を言い渡すのは難しいのではないかと考えるが、薬物使用者に対する刑の一部の執行猶予制度をどのように運用していくのか、最高裁判所当局に伺いたい。

## 2 外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律案（内閣提出第30号）

- ・上川法務大臣から提案理由の説明を聴取しました。